



一般社団法人JAIMHのスタートにあたり

代表理事 渡辺久子



このたび日本乳幼児精神保健学会
JAIMH（世界乳幼児精神保健学会WAIMH日本支部）は
一般社団法人になりました。

WAIMHに日本人が初めて発表したのは今から36年前の1986年。チェルノブイリ原発事故の年でした。2年後の1988年にハワイで環太平洋地方会が開かれたのを皮切りに、1994年に東京地方会、1997年にFOUR WINDS第1回高知大会、2008年に第11回WAIMH横浜世界大会が開かれました。JAIMHはその後WAIMH日本支部と統合し、今年一般社団法人JAIMHになりました。

東日本大震災、コロナパンデミック、異常気象、ウクライナ侵攻の起きる今日、今まで隠されていた貧困や社会格差の子どもへの深刻な影響が露呈し、被災によりさらに課題が重なる厳しい現実があります。目の前の乳幼児と家族にとり、何が真に役立つ地道な支援なのかを、当事者目線で実践する専門性が求められています。

今、苦難の渦中にあるウクライナの乳幼児支援者から、福島での東日本大震災後の支援活動について教えてほしいとの依頼がきています。日本の苦勞が世界の仲間に役立つ時がきたのです。またJAIMH会員で海外に羽ばたき、欧米の精神保健機関で専門家養成リーダーとして活躍する若者も生まれていて、日本の乳幼児精神保健の課題を共に考えてくれる海外の同胞からの応援もあります。

一般社団法人JAIMHは、まず乳幼児精神保健の原点に立ち戻ることから始めたいと思います。それは乳幼児の生きる現場に焦点をあてた親身な現場主義です。第1回FOUR WINDS高知大会で参加者が一体となって、保育現場の発表に涙を流して聴き入ったあの原点です。

戦後の日本は平和を謳いながら、内省を後回しにし、高度経済成長に邁進して効率を優先し、競争心、虚栄心のはびこる社会を生み出しました。空気や河川を汚染した公害とならぶ精神風土の汚染です。日本人が古くから地道に培ってきた習慣には、地域社会の支えあい、子どもが子どもらしく生きることのできる居場所創りや、厳しくも美しい自然から学ぶのちへの畏敬があります。生きることの本質を追求し、自分は皆のために何ができるかを考え、黙々とやりぬく粘り強さ。これこそ持続可能な地球につながる私たち日本人の特質でしょう。

一般社団法人JAIMHは、一人ひとりの子どもに、生まれてよかったと思えるような乳幼児期を実現するための集まりです。赤ちゃんは人を信じて生まれてきます。誕生直後から、人が親切で温かく思いやりと責任をもって自分を守ってくれることを期待しています。乳幼児の瞳が生き生きと輝くには、まず私たち自身が人として品位ある自分であることを目指し、内省を重ねることから始めたいと思います。

日本乳幼児精神保健学会 事務局

〒963-8871 福島県郡山市本町 1-13-17 医療法人仁寿会 日本乳幼児精神保健学会事務局

TEL 024-932-0154 FAX 024-932-0245

E-mail info@japan-aimh.com

https://japan-aimh.smartcore.jp/

会費のお振込みは下記の口座にお願いします

1 ゆうちょ銀行振替口座 番号 00200-6-82510
名義:日本乳幼児精神保健学会

2 ゆうちょ銀行通常貯金口座 記号 10940 番号 30141501
名義:日本乳幼児精神保健学会

第2回 学術集会 名古屋大会へ

開催日 2022年11月26日(土)～27日(日)

会場 名古屋大学野依学術記念交流館



Suzi Tortora

今年の学術集会は11月26日(土)27日(日)名古屋大学野依学術記念交流館にて行います。場所は名古屋市の東部、地下鉄名城線名古屋大学下車地下鉄出口から徒歩6分です。会場は定員180人ほどのこじんまりとしたホールですが、1階に会場の様子を視聴することができる場所があります(80人ほど収容可)。直接見聞きすることが希望の方は早めに申し込んでください。直接参加は申込者数が満席に達したところで打ち切ります。まだコロナの流行が収まりませんので、現地参加が不安な方はオンラインで参加することもできます。

開催内容は現地実行委員会で検討して決定しました。タイムテーブルは学会HPに掲載していますのでご参照ください。

トップバッターは遊びのワークショップです。富山県の早川隆志さんをお願いしました。特別支援学校で教える中から、学びの本質は遊びにあると気づき、教職を辞して子どもとの遊びを仕事として活躍してきました。大人が遊び心を復活させることで子どもとの交流が円滑になり、子どもの育ちを助けることができます。その感覚を実体験してください。

柳田邦男さんには今年も「子どもの心が変わる瞬間 転帰を現場で考える」というテーマでお話しさせていただきます。子どもとの関係をあらためて考えることができればと思います。海外招待講演ではSuzi Tortoraさんが「からだの響き合い(仮題)」をテーマにビデオを使って講演します。言葉以前にどのような子どもたちと交流するのか、身体を使っ

た乳幼児との交流を映像として見られます。これぞ「間主観性の交流」というところを目にすることができます。皆さんご期待ください。

さらに実行委員会では生まれたときから小学校に至るまでを専門職でつないでみました。地元の子どもにかかわる専門職にそれぞれの活動を紹介し、連携について話し合うシンポジウムを2つ企画しました。開催順が逆になってしまいますが、妊娠からはじめて周産期を中心とした連携をシンポジウム2、保育所から小学校までをシンポジウム1としました。どちらもシンポジストの皆さんに集まっていたいただき、話し合いを行った上で抄録を作成しました。

シンポジウム1では、まず保育園長・保育所等訪問相談員に、保育園で実際に困っているケースや最近の現場の様子などを話していただき、それを受けて小学校教員・スクールカウンセラーの現場での体験を、さらに小児科医からの報告があります。そこにデイケアと発達障害相談支援事業所を開設している精神科開業医の先生に指定討論で加わっていただきます。

事前の話し合いでは「乳幼児期の育ちが成長してからも影響を与えること」そして「親自身の育ちがその後の子どもの育ちに影響を与えること」まで幅広く話が展開して、その場がシンポジウムのようになっていました。

シンポジウム2では、産婦人科医から見た周産期のハイリスクの講演に続けて、子育て支援を継続してできるように建物、仕組みなどを新しい発想で工



夫して、父や他の家族も子育てに巻き込んでいく話を保健師からしていただきます。また、開業助産所で出産できる施設は持たずに、産前産後の支援を幅広く行っている助産師と、産科小児科を抱える病院の心理士から、連携の取り組みの話。そして乳児期に乳児院・児童相談所からの支援をどう組み込んで行っていくかを考えます。周産期の支援に初期から取り組んでいるベテラン心理士に助言をいただきます。

こちら事前の話し合いが3時間以上になり、シンポジウムを1回済ませたような状態で臨みます。しかし、まだ実際にはこうした機関の連携がうまくできている状況は作られていません。実践の話はシンポジウムの中で聞けますが、このシンポジウムから新しい連携の話が生まれてくることも期待したいと思います。

コロナウイルスの流行がなくなってしまうという期待はできそうにありません。流行が繰り返起きる中でわたしたちは新しいつながりを模索していく時代に入ってきたと思います。今回の学術集会もハイブリッドという形で、新しいつながりの形を模索していくようになりました。皆さまと一緒に、これから先に進んでいく形も作り上げることができればと思います。オンラインもうまく活用してください。

また前回と同様に、開催後もオンデマンドで当日の様子を視聴することができるようにします。当日の参加が難しい方でも後日視聴していただけますので、どうぞ奮ってご参加ください。

大会長 牧真吉

ウクライナ支援の報告

被災地支援委員会
澤田 修

ロシアのウクライナ侵略戦争が2022年2月24日突然開始され、5か月になります。

私達は3月「ロシアの侵略戦争に強く抗議する。戦争を止めよ!」と声明を出し、募金活動をしました。1か月近くで986,000円集まり、日本ユニセフを通してウクライナ現地の乳幼児やお母さんたちに届けました。

また、月1回の支援会議を開いてきました。日本はかつて侵略戦争を起こし、多くの人を苦しめました。そして沖縄の地上戦、広島及び長崎の原爆投下による悲惨な戦争体験をしました。2011年3月11日には東日本大震災と、それに続く福島原子力発電所の爆発事故という大災害を体験してきました。逃げ惑うウクライナの親子の映像は北西へと一路避難した福島の子どもの凍った目を思い出させます。

私達はこの体験をもとに、ウクライナの乳幼児、お母さんたちだけでなく、パレスチナ、ロヒンギャの難民、更に次々と起こる戦争や大災害で最も弱い立場にある赤ちゃん、子どもたちを守り支えていく活動を考えていきます。

日本に避難してこられているウクライナの人達からも「戦争は赤ちゃんや子どもたちに何を体験させているのか」等、話を直接聞かせてもらいながら学び、深めていかなければなりません。

私達は、乳幼児やお母さんたちのため「甘えと遊び、そして笑顔」を取り戻せる支援を今後も続けていきたいと考えています。

名古屋大会は、これからの学会の在り方、世界とのつながり方を見つけていく大会になることを期待します。

日本乳幼児精神保健学会
●2022年度通常総会報告●

2022年6月18日(土) 14:00~14:30
開催形式:WEB開催(Zoom形式)

司会:大場 エミ
議長:松原 徹 議事録署名人:掛斐 衣海
学会会員数385名
(総会出席数49名、委任状136名、合計185名)

第1号議案 2021年度活動報告

副会長ダーリンブル規子より報告。委任状と合わせ満場一致の賛成となり、可決となった。

第2号議案 2021年度会計報告

郡山事務局菊池信太郎と、監査について監事酒井信子より報告がなされた。委任状と合わせ満場一致の賛成となり、可決となった。

第3号議案 日本乳幼児精神保健学会閉会

会長渡辺久子より説明があった。委任状と合わせ満場一致の賛成となり、可決となった。

以上をもって、司会が任意団体としての日本乳幼児精神保健学会総会の閉会を宣言した。

一般社団法人日本乳幼児精神保健学会
●2022年度臨時総会報告●

2022年6月18日(土) 14:30~15:00
開催形式:WEB開催(Zoom形式)

司会:大場 エミ
議長:渡辺 久子 議事録署名人:掛斐 衣海
学会会員数385名
(総会出席数49名、委任状124名、合計173名)

第1号議案 定款の変更

郡山事務局の菊池信太郎より、4月11日に3名の理事によって登記されたこと、各条項の説明があった。委任状と合わせ賛成が総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

第2号議案 理事の選任

郡山事務局の菊池信太郎より、理事の選任・候補者・監事についての説明があった。委任状と合わせ賛成が総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

第3号議案 2022年度活動計画(案)

郡山事務局の菊池信太郎より、2022年度事業と組織図についての説明があった。委任状と合わせ賛成が総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

第4号議案 2022年度予算(案)

郡山事務局の菊池信太郎より、2022年度予算(案)についての説明があった。任意団体時に毎年度行われていた学術集会が加わり、当時の繰越金が収入に含まれる。委任状と合わせ賛成が総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

10月14日申し込み開始

WEB講演会のお知らせ

四万十町認定こども園「たのの」で17年続く「カンガルーのポッケ」命の大切さを伝え、自己肯定感を高める学習

全国の学会員の皆様 東京支部からのお知らせです。2022年12月18日、高知の小児科医澤田由紀子先生に保育園や小学校で続けておられるいのちの学習についてお話いただきます。

「気が付くと17年目に入っているいのちの学習「カンガルーのポッケ」。子ども達に自分もお友達も大切にしてほしい、家族に愛されていることを知ってほしい、そう願いながら続けています」とのこと。現場のいのちや心が生き生きするというこの学習を、澤田先生が体験されている現場の方々と語り合います。

こども園『たのの』門田清子園長、活動を見守ってきた高知新聞記者門田朋三さんと語り合い、長年高知県中央児童相談所で心理職を務められた新宮一夫先生にコメントをいただきます。どうぞ奮ってご参加ください。

参考サイト:「あなたが大切」と伝えたい・16年目のポッケ
①「自分を大事にする」は自分の体を知ることから
ココハレ - 高知の子育て応援ウェブメディア (kokoharekochi.com)

お問合せ先 tokyofourwinds@gmail.com